

2019年台風19号による佐久市原の千曲川の河岸侵食により住宅などが崩落 (速報)

常田公和 (元一般財団法人日本地図センター)

2019年10月30日

2019年10月12日、台風19号による豪雨で長野県佐久市原の千曲川河岸侵食により住宅などが崩落し流出した。野沢橋の約400m上流左岸である。1974年の台風16号による多摩川水害(狛江市の水害)を思い起こさせるものであった。

10月23日、現地に行き現状を記録したので報告する。

下図は、10月23日撮影の野沢橋である。橋脚には、流木などが引っかかっている。



千曲川の河岸が侵食され流出させた流路は、直線的な部分である。(下図は地理院地図に加筆)



しかし、国土地理院撮影の空中写真 CCB7513-C34B-19 1975年10月21日(下図)によって河床形態をみると、流れは、崩落した河岸に向かっていている。図の右下の取水堰から流れは収斂して河岸に向かっていている。河川敷には木が生えているようである。



因みに河床形態は、米軍撮影の空中写真（USA R1230-27 1948年3月31日）でも、ほぼ同様の形態であった。



10月23日撮影の崩落箇所は下図である（ブルーシートの所）。河川敷に生えていたと思われる木などはなく、まだ濁流が流れていた。ただし、工事を進めるために、流れは代えられていると思われる。



上流側では、重機が動いていた。

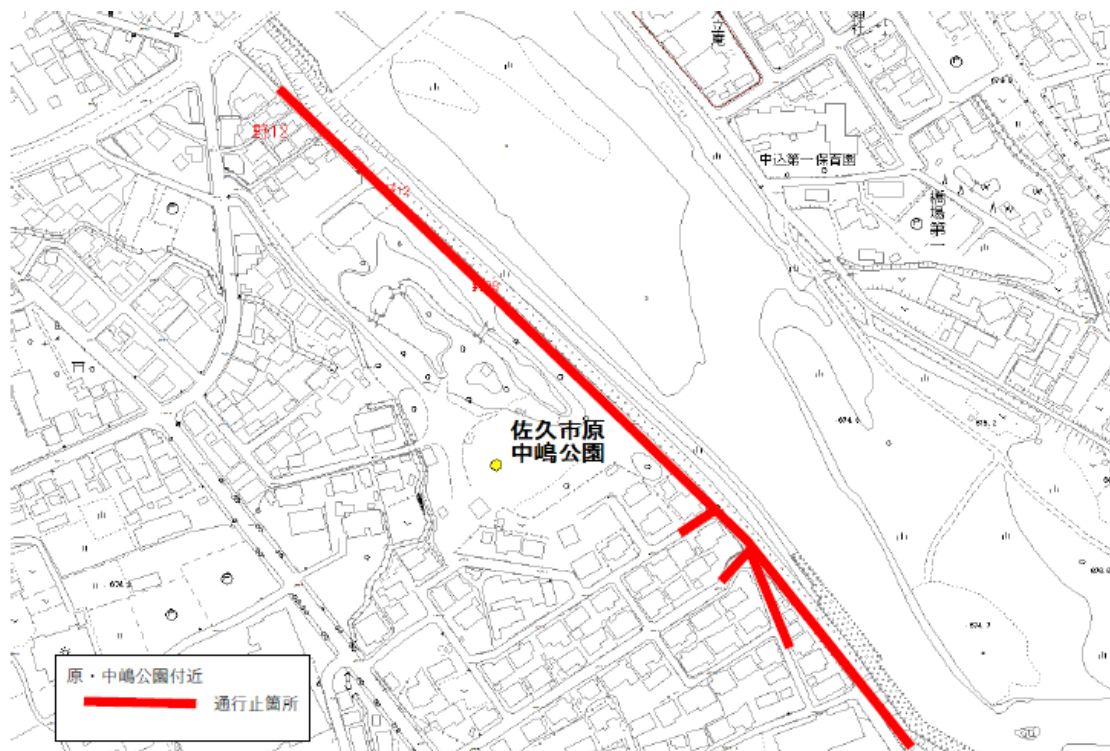


崩落箇所のブルーシートが掛けられていない公園の箇所は、下図のような状態である。道路脇のガードレールが無惨に垂れ下がるようになっている。



佐久市のホームページには、通行止めの区間として示されている（下図）。

https://www.city.saku.nagano.jp/kurashi/anzen_doro_kasen/doro/20191012.html



野沢橋の上流にある床固め工は、下図のような状態であり、まだ、濁流が激しく流れていた。

